

こぼ見て! クローズアップ



揖斐まつり 子ども歌舞伎

三輪神社の境内に曳き揃えられた「軸」。右から、上町の高砂軸、下町の鳳凰軸、中町の住吉軸、下新町の市軸、上新町の龍宮軸。5つの町が1輦ずつ軸を所有しています。

豪華絢爛な5輦の軸とその舞台上で演じる稚児役者、大勢の男たちが担ぐ勇壮な神輿。新緑の季節の風物詩です。

揖斐まつりの歴史は古く、江戸時代享保年間に始まったとされています。祭りで奉納した踊りから転じて、子ども歌舞伎の上演が始まったのは明治時代中ごろ。町の人々は伝統ある祭りを誇りとし、脈々と受け継いできました。5月4日、5日の両日はお祭りを楽しむ人々で、揖斐のまちは大にぎわいです。



本町通りを抜け、軸は三輪神社へと向かいます。



白装束に身を包んだ100人ほどの男たちが3基の大神輿を担ぎ、三輪神社を出立して決められた道順どりに町内各神社を巡ります。大神輿の後は、9基の青年神輿と子ども神輿が続ぎ、祭りは最高潮へ向かいます。

子ども歌舞伎の夜の上演が終わると、提灯に彩られた5輦の軸はそれぞれの町内へ帰ります。



子ども歌舞伎

小さな役者の迫真の演技。見得を切るたびに、大きな掛け声と拍手が湧き起こります。

子ども歌舞伎は5つの町の輪番制で、その年の当番町の軸で上演されます。

稚児役者が衣装をまとい、正式に三輪神社へ参拝するのが「練り込み」です。さらびやかな顔見せ行列とお囃子が町を練り歩きます。



子ども歌舞伎の 舞台裏

一時間にもわたる演目を演じ切るために、何か月前から師匠について厳しい稽古を重ねます。主役の子どもたちを、舞台裏で多くの人々が支えています。



おもな祭り・イベント



いびがわの祭り ありがとう花火 (揖斐川河畔)



豊年祈願祭 (揖斐川町谷汲徳積)